

なぜ勉強するのか？

もっと勉強してくれたらなあ・・・何度悩んだかしのれないけれど、そうそう簡単に私の努力が結果となって報われることはない。生徒は私の思うようにはなかなか勉強してくれないのだ。かと言って「えい、勝手にしろ！あんなヤツラのことなんか知ったことか」と放り出してしまったら・・・私は教師失格である。だって、これが私の仕事なのだから。だから「よし、もう一回頑張ろう」と精一杯の気力を振り絞り、生徒に勉強させるための作戦を考えるのだ。例えば、こんな文章を配って・・・

教師に限らず、社会に出てからの仕事なんて、だいたいそんなものである。努力がそのまま評価されたり、簡単に結果となって報われるなんてことは滅多にないのだ。頑張っても・・・ダメで。でも頑張っても・・・やっぱりダメで。それでも諦めずに頑張っても・・・けれども、なかなかうまくいなくて・・・そんなことはよくある話。現実には厳しいのだ。ただ、一つだけハッキリしているのは、誠実に頑張れば、努力はいつか必ず報われるということ。そして、その喜びを知っているからこそ、人間はなかなか報われない努力を続けることもできる。2回3回頑張って結果が出なかったといって頑張るのをやめてしまったら、どんな仕事も務まらないし、努力が報われる喜びなど永遠に経験することはないのだ。

そんなふうにと考えると、15歳から18歳までの3年間を高等学校で過ごすことが、いかに貴重な経験であるかを思わずにはいられないのだ。だって、社会に出てからの努力に比べれば、高校での努力は、おもしろいほど簡単に報われるのだから。

例えば、来週の間テスト、英語で90点を取ろうという目標を立てたとする。そりゃ確かに難しいことかもしれない。でもどうだろう、頑張れば報われるし、頑張らなければ報われないことだけははっきりしている。そして、一回でも報われた経験のある人にとって、努力はそれほど苦痛ではない。努力すれば報われることがわかっているからだ。一方、「オレだって頑張れば・・・」などと思いつつ、結局一回も本気で頑張ったことがなく、だから当然一回も報われたことのない人にとって、努力は大変な苦痛なのだ。だって、どんなに頑張っても報われるという保証がないのだから。ムダになるかも知れない努力を続けるのは“苦行”と言うほかないのだ。テニスだって同じである。伝統校が強いのは特別な練習をしているからではない。彼らは、先輩を見て、頑張れば必ず報われることを知っているのだ。だから本気で頑張れるのだ。だから強いのだ。

本気で勉強しなさい。ただし、結果にもつながらないような頑張りでは、頑張ったうちには入らない。頑張っても、頑張っても、結果が出るまで頑張って、頑張れば必ず結果となって報われることを知りなさい。それを今やっておかなければ、テニスで頑張れるはずがないじゃないか。そして、いずれ渡り合うことになる“受験”という難敵に勝てるはずがないじゃないか。そればかりか、お前は、一生頑張らない人間になってしまう。